

付録 DVD ～現場の人たちのインタビュー映像～ インタビュー内容要旨

① 間伐材を活用するための努力（ビレッジ美合館）

【関連資料番号 68・73】

●インタビュー① 「なぜ、薪ボイラーを作ったのか」

常務取締役 衣斐 恵美子(えび えみこ)さん



その当時、燃料費が3倍くらいになり、(燃料代が)月に250万円位かかっていた、経営が大変だった。また、目の前の山に間伐材が大量に放置されており、それも困っていたので、薪ボイラーを開発した。

●インタビュー② 「薪を使うということは」

宮武 浩一(みやたけ こういち)さん



間伐材を使うということは、環境にとってメリットがたくさんある。その1つは、二酸化炭素が増えないということである。物を燃やすと二酸化炭素は発生するので、薪を燃やしても、二酸化炭素は発生する。ただし、薪から発生する二酸化炭素は、木が成長するときに光合成によって木に蓄えられた二酸化炭素を出しているだけなので、(二酸化炭素が)増えたことにはならない。また、間伐材を温泉を沸かす油の代わりに使ってみると、毎月かかるお金をずっと安くすることができた。今後もっと間伐材を使って周りの山々を元気にしていきたい。

●インタビュー③ 「大変な運搬」

佐伯 雅司(さえき まさじ)さん



間伐材を集めるのが一番大変な重労働だと思う。NPOなどが手伝ってくれるものの、機械を使って入れる所はよいが、機械が入れない場所は人力での作業になる。大きい木になると100kgとかそれ以上になるかもしれない。

●インタビュー④ 「これで2日分」

佐伯 雅司(さえき まさじ)さん



4tトラックいっぱい約2日くらいしかもたない。4tトラックに木を積んだり、下ろしたりする手間が結構かかるうえ、それを数回繰り返さなければならぬので大変である。

なお、木を集める工夫として、近隣の住民の方にいらぬ木を切って持ってきてもらい、そのお礼として、入浴券を渡す形で協力してもらっている。

●インタビュー⑤ 「1～2人の作業」

佐伯 雅司(さえき まさじ)さん



薪づくり作業も大変である。薪を燃やす前に長さを揃えるためチェーンソーなどで切っていく。持ってきた材木が乾いていたらいいが、乾いていない場合は切りにくく、重いものだとして30～40kgある。

そういう材木を乾かすために順番に積み上げていく作業もまた大変である。

●インタビュー⑥ 「こまめな温度調整」

佐伯 雅司(さえき まさじ)さん



温度調整も結構大変である。63～83℃の間で管理しているが、木によって燃え方に差がある。一番火力があって、燃えるのが「松」。「松」は、油を含むため、火力もあり長持ちする。一方、燃えにくいのはぬれた「杉」である。これらを混ぜて燃やしている。

作業時間は長く、お客さんがたくさん来てくれた日には、朝2時～夜11時までの連続作業となる。途中で交代しながら働いているものの、やはり辛い作業である。

●インタビュー⑦ 「子どもたちへのメッセージ」

宮武 浩一(みやたけ こういち)さん



今回の学習だけでは分からないことがたくさんあると思う。

実際に来て、自然と空気と水を感じてほしい。また、間伐材で沸かした温泉にも是非入ってほしい。